蚕室球場での応援風景の一コマ（筆者撮影）

（筆者撮影）

野球場（ヤグジャン）へ行こう

渡辺雄一

近年、李承燁（イ・スンヨプ）（巨人）や李炳圭（イ・ビョンギュ）（中日）といった韓国を代表するスター選手の日本移籍や、WBCでの三度にわたる日韓戦などで、日本でもにわかに注目されつつある韓国プロ野球。今回は、日本と似ているようで微妙に異なる韓国プロ野球の応援風景を紹介しよう。

まずは試合開始前に腹ごしらえだ。チケット売り場や球場入口の周辺には露店が並び、「キンパプ（韓国のり巻き）千ウォ～ン」というオバちゃんたちの声が飛び交う。「キンパプ一個下さい」と言っても、「二個食いな、三個食いな」としつこく迫ってくるオバちゃんの商売人魂には注意が必要だ。日本の球場でよく売られている、いわゆるお弁当というものは韓国にはなく、観客の多くはチキンやトッポッキ（韓国餅の甘辛炒め）、カップ麺などをよく食べている。もちろん、ビールや焼酎も定番だ。

野球観戦には欠かせない応援グッズは、韓国ではメガホンではなく、棒状のビニール風船が主流だ。この風船、意外にしっかりとできていて、叩き方によっては大きく響いてなかなか良い音が出る。球場内には専用の空気入れがあるので、試合前の準備も楽チンだ。試合後には空気を抜いて丸めれば、かさばらず持ち運びにも便利で手間いらず。おまけにリサイクル可能だから、環境にも優しい。

いざ試合が始まれば、球場内は歓声と熱気に包まれる。韓国では応援の中心は外野ではなく、専ら内野側だ。一・三塁両側には応援舞台やスピーカーが設置され、応援団長の威勢のいい掛け声や応援歌が大音量で流れる。舞台では球団専属のチアガールたちが、自慢のダンス・パフォーマンスで試合を盛り上げる（左写真）。ビニール風船を手に、応援団長の掛け声やチアガールのダンスに合わせて身を揺らせば、気分はさながら東京六大学野球といったところか。

チアリーダーたちのパフォーマンスは、イニングごとに演出を変えたり、衣装替えや小道具を用いたりと工夫をこらしている。実際の試合だけでなく、そんな応援風景でも観客を楽しませてくれるのが韓国プロ野球の魅力かもしれない。ただ、その艶やかな踊りに時には試合そっちのけで目を奪われてしまうことも？間違いなく、オジさんたちの目の保養にはなっていると思われる。また、球場によっては観客が花火を左右に振り回す応援方法もあるというから驚きだ。誤って火災にならないといいのだが。

試合中は一瞬たりとも気が抜けない。ファールボールがよく飛んでくるからではない。ファールボールが飛んでくる確率より、お菓子や焼酎などが入った箱を頭に載せた売り子のオバさんが自分の座席前の狭い空間を強引に通り抜けようとする確率のほうがはるかに高い。そんな我が道を行く売り子のオバさんたちが球場内を縦横無尽に歩き回っている。

お楽しみは試合後にもある。試合を終えた選手が、関係者専用口ではない一般用の正面ゲートから平然と出てくる光景をよく見かける。しかも、球場横の駐車場に一般車両に混じって停めてある自家用車までてくてくと歩いていく光景も。人気選手ともなれば、サインや握手を求めるファンや子供たちでたちまちのうちに人だかりになってしまう。これは一種のファンサービスだろうか。いや、おそらく駐車場までの最短ルートを選んでいるだけだろう。選手たちも「ゴーイング・マイウェイ」だ。

プロといっても、変に敷居が高くなく、身近で親しみが感じられる韓国プロ野球。一度球場に足を運んでみれば、きっとそんな雰囲気を味わうことができるだろう。さあ、季節は野球シーズン真っ盛り。野球場へ行ってみよう。

（わたなべ　ゆういち／アジア経済研究所地域研究センター）